

# 平成27年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の函館市の結果について

## 1 調査の内容

### (1) 調査の目的

子どもの体力が低下している状況に鑑み、全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

### (2) 調査の対象学年

- ・小学校第5学年 全児童
- ・中学校第2学年 全生徒

### (3) 調査の内容

#### ① 児童生徒に対する調査

##### ア 実技に関する調査

測定方法等は新体力テストと同様

[小学校8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、

20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

[中学校8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走（男子1500m、

女子1000m）、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、

ハンドボール投げ

※ 持久走か20mシャトルランのどちらかを選択して実施

イ 質問紙調査 生活習慣、食習慣、運動習慣に関する質問紙調査

#### ② 学校に対する質問紙調査

学校における体育、保健体育の指導および特別活動等に関する質問紙調査

### (4) 調査の方法

悉皆調査

### (5) 調査実施期間

平成27年4月から7月末まで

### (6) 調査学校数および児童生徒数（公立学校）

	参加小学校数	児童数	参加中学校数	生徒数
全国	20,477	1,068,598	10,578	1,061,981
北海道	1,088	41,749	633	42,098
函館市	46	1,821	28	1,763

## (7) 結果の概要

※ 調査結果の標記について

同程度 : T得点 (全国平均を50とした場合の偏差値) の差が1未満  
やや上回る, やや下回る : T得点の差が1~3  
上回る, 下回る : T得点の差が3以上

### ① 体格について

〈身長〉

【小学校】男子, 女子ともに, 全国平均をやや上回っている。

【中学校】男子, 女子ともに, 全国平均をやや上回っている。

〈体重〉

【小学校】男子は, 全国平均を上回っており, 女子は, 全国平均をやや上回っている。

【中学校】男子は, 全国平均を上回っており, 女子は, 全国平均をやや上回っている。

### ② 実技に関する調査

〈握力〉(体力要素:筋力)

【小学校】男女とも, 全国平均を上回っている。

【中学校】男子で全国平均をやや上回り, 女子はほぼ同等。

〈上体起こし〉(筋パワー・筋持久力)

【小学校】男子は全国平均とほぼ同等, 女子は全国平均をやや下回っている。

【中学校】男女とも全国平均を下回っている。

〈長座体前屈〉(柔軟性)

【小学校】男女とも, 全国平均をやや上回っている。

【中学校】男女とも, 全国平均をやや下回っている。

〈反復横跳び〉(敏しょう性)

【小学校】男女とも, 全国平均をやや下回っている。

【中学校】男女とも, 全国平均を下回っている。

〈持久走〉(中学校のみ:全身持久力・長距離走能力)

・男子は全国平均をやや下回っている。

・女子は全国平均を下回っている。

〈シャトルラン〉(全身持久力)

【小学校】男女とも, 全国平均を下回っている。

【中学校】男子は全国平均をやや下回り, 女子は全国平均を下回っている。

〈50m走〉(疾走能力) ※疾走能力・きわめて速く走る能力

・小, 中男女とも, 全国平均をやや下回っている。

〈立ち幅跳び〉(筋パワー・跳躍能力)

【小学校】男子は, 全国平均とほぼ同等, 女子は全国平均をやや下回っている。

【中学校】男子は全国平均とほぼ同等だが, 女子は全国平均をやや下回っている。

〈ボール投げ〉(巧緻性・投球能力) ※巧緻性・環境に適応して動作を調整し目的を達成する能力

【小学校】男女とも全国平均と同等。

【中学校】男女とも全国平均をやや下回っている。

### ③ 質問紙調査

#### ※ 調査結果の標記について

同程度	: T得点 (全国平均を50とした場合の偏差値) の差が1未満
やや上回る, やや下回る	: T得点の差が1~3
上回る, 下回る	: T得点の差が3以上

#### ア 運動習慣等について

##### 【小学校】

- 「運動が得意」と回答している割合は、男子は全国平均をやや上回り、女子は同等である。
- 「朝食を毎日食べる」割合が、全国平均を下回っている。
- 1週間の総運動時間は男子は全国平均と同等であり、女子はやや下回っている。
- 土日の運動時間は全国平均と同等である。
- 「休み時間の過ごし方」では、「体育館で過ごすことが多い」と回答している割合は、全国平均を上回っている。

##### 【中学校】

- 運動部への所属については、所属している割合は全国平均を下回っている。
- 「運動・スポーツが苦手」と回答している割合は、男子は全国平均と同等であり、女子はやや上回っている。
- 朝食を毎日食べる割合は、男子は全国平均をやや下回り、女子は下回っている。
- 「平日の携帯電話やスマートフォンの使用時間」では、「3時間以上」と回答している割合は、全国平均をやや上回っている。
- 1週間の総運動時間は、男子は全国平均をやや下回り、女子は下回っている。
- 日曜日の運動時間は、全国平均をやや上回っている。

#### イ 体育の授業について

##### 【小学校】

- 「できないことができるようになったきっかけ」では、「授業外で自分で練習した」と回答している割合は、男女とも全国平均を上回っている。

##### 【中学校】

- 「できないことができるようになったきっかけ」では、「授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」と回答している割合は、男子は全国平均をやや下回り、女子は下回っている。

## 2 体力向上の取組について

### 【結果の考察】

体力合計点において、小学校男子、小学校女子、中学校男子は全国平均をやや下回っており、中学校女子は下回る結果となりました。各項目において、小学校は握力と長座体前屈、中学校では男子の握力以外の全ての種目で全国平均を下回りました。

また、小学生は、「健康には、運動、食事、睡眠が大切だ」ということが全国平均を上回っているものの、中学生はやや下回り、依然として朝食の摂取率が全国平均を下回っています。これらの要因としては、運動部への所属割合が低いことや、テレビ等の視聴、ゲームの実施時間が長いため、運動やスポーツの時間が短くなっていると考えられます。

運動が嫌いな児童生徒は、運動を苦手と回答していることから、運動が好きになるような取組をすることで、運動が得意な児童生徒が増加すると考えられます。

また、小学校では、運動が好きな児童は、体育の授業を楽しんでいるのに対し、中学校においては運動が好きな生徒が必ずしも、体育の授業を楽しんでいるわけではないことや、できないことができるようになったきっかけが、先生に個別にコツやポイントを教えてもらったと回答している生徒が全国平均を下回っていることから、授業が楽しいと感じさせる取組や先生のかかわりが重要であると考えます。

そこで、生活習慣の改善や、体育の授業が楽しいと感じることにつながるよう、外部人材の活用のほか、個に応じた目標を設定させたり、友だちと助け合ったり、役割を果たすような活動を行ったりすることなどを通して、十分な達成感や充実感を味わわせることが大切であると考えます。

### 【今後の対策】

- 平成27年度の「アプローチ」（函館市の学校教育推進の指針）において体力向上に関する取組を示しております。

## 2 体力向上に関する取組の充実

- 子どもが日常的に運動に取り組むことができるよう、体を動かす「時間」の創出、「空間」の工夫を意図的・計画的に行いましょう。
- 体力の向上を意識した体育の授業改善を目指すとともに、運動の日常化に向けて、子どもの実態や学校での取り組みを学校だよりや保健だより等で伝えるなど、家庭や地域への啓発を積極的に行いましょう。